

1 事例の概要

本校では、「学ぶ意欲を育て、学力向上につながる指導法の工夫 ～基礎・基本の見直し～」を研究テーマに設定し、各教科において基礎・基本を見直すことで基礎的・基本的事項の定着をはかりながら学ぶ意欲の育成と学ぶ意欲を引き出す指導法の工夫に取り組んでいる。保健体育科では、「各種の運動の特性に応じた楽しさや喜びに触れることのできる授業」、「友だちと仲よく運動することを通して運動の課題を解決していくことのできる授業」、「適切な指導と評価を実施することで次の指導につなげていくことのできる授業」の実践を心がけている。この授業を積み重ねていくことで一人一人が自ら運動をする意欲を高めていくことができると考えている。

2 実践内容

(1) 単元の目標

- ・球技の特性に関心を持って意欲的に学習に取り組み、互いに協力して練習やゲームに取り組もうとする。また、勝敗に対して公正な態度をとり、健康や安全に留意して学習を進めようとする。
(運動や健康・安全への関心・意欲・態度)
- ・チームや自己の能力にあった課題を持ち、課題解決を目指して練習方法やゲームの仕方を工夫する。
(運動や健康・安全についての思考・判断)
- ・種目の特性に応じた個人的技能を高め、集団的スキルを身につけて相手に対応したゲームができる。
(運動の技能)
- ・種目の特性や練習方法を理解するとともに、ルール及び審判の方法を身につけている。
(運動や健康・安全についての知識・理解)

(2) 指導上の工夫点

① 基礎・基本の定着

生徒の「できた」、「わかった」という思いを大切にしたい。一つ一つの小さな感動の積み重ねが学ぶ意欲を育成していくと考えている。そのためには導入や展開における工夫とともに、基礎・基本を見直し、それを授業で活用し、評価していくことで定着をはかり、学ぶ意欲を育てていく。

② 評価規準の作成と見直し

生徒は、「ほめられた」、「認められた」と感じたときにさらに学習意欲を喚起させていくと考えられる。一人一人のよさや可能性に目を向け、適切な評価を実施していくことが必要である。そのためには、単元全体の評価計画のもと、一時間ごとの評価規準を明確にした上で授業にのぞむとともに、常に評価規準の見直しをはかっていく。

③ 学習カードの活用

学習の計画を立てたり、振り返ったりしながら主体的に進めていくには、学習カードの活用が効果的であると考えている。できるだけ短時間で記入できるように、全単元で同じ学習カードを使用し、課題を把握し、解決に向けて取り組み、振り返って次の授業につなげるという流れで実施している。

3 指導の実際

(1) 学習指導法の工夫

- ・バレーボールではアンダーハンドパス、バドミントンではアンダーハンドストロークを中心に基礎的・基本的な技能の習得のために、毎時間練習に取り組むようにした。
- ・前半は「自分のコートに落とさない」というテーマで個人的技能の向上を目指し、いろいろな練習内容から選択して取り組み、ゲームでラリーが続いた時の楽しさを味わう。後半は「相手のコートに落とそう」というテーマで攻撃するための集団的技能の習得を目指し、練習方法を考えて工夫して取り組み、攻撃が決まった時の楽しさを味わわせたいと考えて授業を構成した。
- ・グループの中でゲームのメンバーを固定せずにゲームは三試合の結果で勝敗を決定すること、また学習カードに友だちから受けたアドバイスを記入することで教え合う活動を活性化させていきたいと考えた。
- ・第三次5時間扱いの3時間目(主な学習内容と活動)

グループ編成 4～5人のグループ(バレーボール4、バドミントン4)

| 段階 | 主な学習内容と活動 |
|-------------|---|
| 導入 (10分) | 1 集合し、あいさつをする。 2 チームごとに分かれ準備運動をする。 3 チームごとに個人的技能の練習をする。 |
| 展開 (32分) | 4 本時の学習課題を確認する。 5 チームごとに課題解決のための練習をする。 6 チーム対抗でゲームをする。 |
| 整理 (8分) | 7 本時の反省と、次時の課題の確認をする。 8 挨拶、かたづけをする。 |

C-1 指導案

4 成果と課題

(1) 成果

- ・生徒自らが種目を選択することで学習活動に対する意欲の高まりが感じられた。自主性が高まり、授業の準備や後始末が早くなり、グループごとの準備運動も声を出して的確に行うことができた。
- ・グループで練習やゲームを進めていくうちに、ゲームで勝ちたいという気持ちが生じ、練習に対する意欲が高まり、男女を問わず声をかけあったり、応援したり、喜びあったりする姿が見られようになり、生徒間のつながりが深まった。
- ・学習カードに記入させることで生徒の思いや考えがより明確になり、授業に取り組む生徒の状況が理解できた。さらにコメントを返すことで次の意欲につなげることができた。

(2) 課題

- ・練習内容や方法を考え工夫する力は、十分とはいえ今後さらに身につけさせたい。そのために学習資料や学習ノートを作成し、その活用を工夫し、生徒の自主的な活動を支援していく必要がある。
- ・一人一人が自己の能力に適した課題を設定し取り組むためには、個に応じた学習指導が大切である。これまで課題を達成できない生徒に対する支援は意識して取り組んできたが、十分達成できた生徒をさらに伸ばすための発展的な学習支援にも取り組んでいきたい。
- ・目標を達成するために授業で何を指導し、評価するかを事前に十分検討し授業にのぞんでいきたい。